

徳川斉昭と上臈年寄り・唐橋の密通事件で将軍継承問題

(大奥の番外編)

2017年4月

水戸9代藩主徳川斉昭と上臈御年寄の唐橋（唐橋）とのスキャンダル

1. 斉昭

- ・水戸8代藩主の弟。兄の養子となって水戸家の藩主を継承した。
- ・息子慶喜を御三卿の一つの一橋家へ養子に出した。水戸家から将軍が出たことは無いので、将軍への足掛かりと考えた斉昭（なりあき）の野心であった。

2. 唐橋

- ・11代将軍家斉の7女の峯姫（後の峯寿院）は水戸8代藩主の正室として嫁ぐが、大奥から上臈御年寄唐橋を御守殿（峯姫）付の上臈御年寄として水戸に連れてきた。

3. 密通事件

- ・好色さでは将軍家斉（16人の側室がいて、56人の子供がいた）に引けをとらない斉昭は唐橋の美貌に目がくらみ、密通した上に孕ませてしまった。（一方、唐橋も好色女だった？そのような記述を読んではいないが、斉昭だけの一方的な思いだけでは、成り立たないと思われる）
- ・それを知った峯姫は激怒し、実父の大御所家斉（隠居後も実権を握っていた）に言上したため、斉昭に謹慎処分が下された。

4. 将軍家継承争いへの余波

(1) 慶喜派（よしのぶ）

- ・老中首座阿部正弘、雄藩の薩摩藩主島津齐彬（なりあきら）、水戸藩主徳川斉昭、越前福井藩主松平慶永（よしなが）らが、慶喜を擁して次期将軍の実現を目論んでいた。

薩摩の西郷隆盛や越前の橋本佐内らが、主命をおびて公卿や諸大名にも慶喜擁立の説得に奔走していた。慶福より年長で英明の誉れの高い慶喜が優位に立っていた。

(2) 慶福派（よしとみ）

- ・紀州家の出身で、当時13歳
- ・老中松平忠固（ただかた）、彦根藩主井伊直弼（いいなおすけ）等南紀派と呼ばれる反徳川斉昭勢力が中心である。

(3) 慶福（14代将軍家茂（いえもち））が跡目になった背景

- ・慶喜が将軍になれば、斉昭に発言力が増えて、厳しい儉約政策が行われると吹き込まれた大奥の女中たちは慶福支持に傾いた。とりわけ上臈御年寄唐橋と

の密通スキャンダルが原因で斉昭の大奥での評判は地に落ちていた。

- ・斉昭は天皇の勅命を無視して、アメリカと日米友好条約を締結した大老井伊直弼に直言を呈するために、幕府に無断で登城した。無断で登城したことを咎められ、謹慎させられた。大老はその謹慎中に慶福擁立を強行した。斉昭の好色（と唐橋の好色？）が招いた密通事件が形勢を逆転させたといえる。これはその後の歴史の回転のキーであった。

5. 日本の維新への影響

歴史に‘たら話’はないが、14代将軍に英明の誉れの高い慶喜がなっていれば、歴史はどのように変わっていたのか？15代将軍として慶喜は幾多の改革をしている。もっと早い時期に幕府は改革できたのではなかろうか？

- ・安政の大獄や桜田門外の変も起こらなかった。（因みに、井伊大老を襲った時の銃が残存している。最近になって海外から日本に戻ってきたが、葵の御紋のついた斉昭愛玩の銃である。水戸藩で製造したものである。直々に暗殺者に与えたのだろうか？）
- ・将軍就任後、慶喜は老中職を廃止し、事務方、会計方、陸軍、海軍に組織を変更した。
- ・慶喜は軍隊にフランス式を取り入れ、最新の銃火器を購入し、さらに最新の軍艦開陽丸を購入した。官軍より最新の火器や軍艦であった。
- ・14代将軍に就任していたら、長州との闘い、官軍との闘いの行方は？明治維新は？
- ・しかし、慶喜は‘二心なく、強情公‘（子供の頃より、親泣かせの強情であった。）とか’ねじあげの酒飲み‘（もう、飲めないとか言いながらいつまでも飲む。すすめないと機嫌が悪くなる）とか変わり者との評判もあった。

木戸孝允は’家康の再生を見るがごとし‘と高評価している。慶喜は’日本国のために幕府を葬り去るの任にあたる’とも言っていた。ひょっとして、もっと早く明治維新が実現したかもしれない。

いずれにしても、斉昭の好色が日本の歴史を大きく変えたと言える。

（鈴木由紀子著書‘大奥の奥‘に私見を交えて）

以上